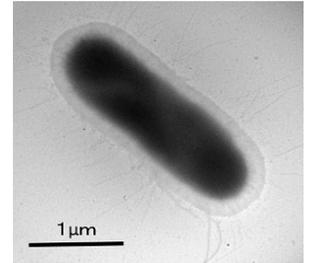


# サルモネラ症に注意しましょう

令和元年  
7月12日発行

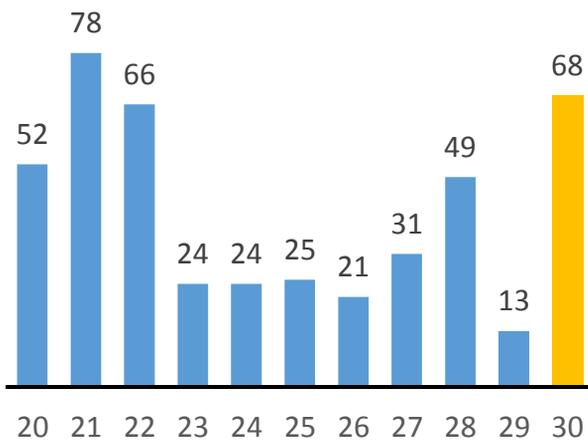
昨年度、管内の牛飼養農家で4件のサルモネラ症が発生しました。下痢が広まっている、熱を伴う下痢が治らないなど、サルモネラ症を疑う場合は、早めに御相談ください。



動物衛生研究部門HPより

## 原因菌について

牛のサルモネラ症発生件数  
(全国)の推移



様々な動物種に感染し下痢や敗血症を引き起こすサルモネラ菌のうち、Dublin、Enteritidis、Typhimurium(ST)、Choleraesuis(SC)のみが「サルモネラ症」として届出伝染病に指定されています。以前は、STであっても2相欠損(O4:i:-)株は届出対象外でしたが、2018年4月から届出対象となりました。なお、届出対象ではありませんが、SCの2相欠損株の存在もすでに報告されています。

## 症状について

血清型や宿主の種類や年齢などにより病型が異なります。昨年度の発生はすべてSTでしたが、その半数が2相欠損株でした。過去にも、管内農場で2相欠損株が検出されていますので、まれな病気ではないとお考えください。

(サルモネラ症 一般的な症状)

- 急性例 → 食欲不振、元気消失、下痢症状。主として敗血症により死亡。
- 慢性例 → 腸炎に起因する脱水・消瘦。死亡率は低い。

(2018年度の管内サルモネラ症事例の特徴)

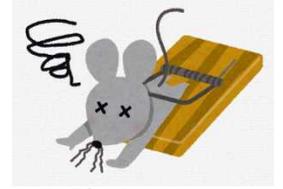
	原因菌	発生時期	死亡率	特徴
1	ST 2相欠損株	夏季	低い	発熱を伴う下痢、成牛に多く発生
2				発熱を伴う下痢、成牛ののち子牛に発生
3	ST	冬季	高い	血便、子牛に多く発生
4				下痢、子牛に多く発生し、死亡数多い

## 農家への指導に御協力をお願いします

発生してから対応するのではなく、積極的に予防するよう、先生方からも御指導をお願いします。

○飼養衛生管理基準を遵守し、衛生管理を徹底する。

保菌動物や汚染飼料の導入阻止、飼育環境・器具の消毒、  
畜舎への人の立ち入り制限や出入り時の消毒、野生動物の侵入防止、  
ハエやネズミなどの駆除 等



○リスクが高い場合は、生菌剤やワクチンを積極的に使用する。

○過去に発生した農場、導入が多い農場ではワクチンを用いる。



## 治療する場合の注意点

○耐性菌に注意して、適切な抗菌剤を使用しましょう。

Enteritidisを除く3血清型では多剤耐性を示す場合が多いので、薬剤の使用にあたっては分離菌の薬剤感受性を調べて使用することが望ましいとされています。御使用になりたい薬剤がありましたら、可能な範囲で感受性試験を行います。まずは御相談ください。

○動物用医薬品として承認されている生菌剤を積極的に使用し、症状が落ち着いてもできる限り継続して使用しましょう。

○ワクチンを用いてまん延防止対策を行いましょう。

検査に関するお問合せは・・・

栃木県県北家畜保健衛生所 防疫課

TEL:0287-36-0314 FAX:0287-37-4825